

事業所名： 福光園グループホームやすらぎの家

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0370900441 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人柏寿会 | | |
| 事業所名 | 福光園グループホームやすらぎの家 | | |
| 所在地 | 〒021-0901 岩手県一関市真柴字柵木立43-96 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年8月6日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年11月16日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・生活面においては、入居者様が自分らしく生活できるよう、ひとりひとりペースに合わせた対応を行っています。できる限りの自立支援を目指し、ゆっくりでも確実に達成感を感じる事ができるよう対応に努めています(さりげなく・何気ない支援)。
 ・環境面においては、ウッドデッキにて入居者様と職員が一緒になって家庭菜園をし、室内ではメダカを育てています。家庭菜園では、収穫と緑のカーテンを兼ね主につるの植物を栽培。発育を目で楽しみ、収穫までできるよう工夫しています。また、室内ではメダカが卵から成長していく様子を身近で体験でき、入居者様の喜びに繋がってきているようです。
 ・コロナ禍で、ご家族との関わりや面会禁止等の制限はあるものの、できる限りの情報共有をしています(ケースバック・電話での情報提供等)。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一関市内から旧花泉町に向かって車で10分程度の自然あふれる環境下にあり、飲食店兼宿泊施設を改修した1ユニットのグループホームである。「自分らしく・さりげなく・和やかに」の事業所理念に基づき、利用者一人一人に寄り添いながら、個々のペースに合わせた対応と、利用者本人が、ゆっくりであっても確実に“やれた”の気持ちを持って支援の実践に努め、家族には毎月沢山の写真を掲載したお便りと1ヶ月分の生活記録を送付している。利用者の希望と現状に即したケアプランの下、利用者はゆったりと穏やかな生活を送ることが出来ている。近隣の方々から教われながら、野菜を植え、収穫物のおすそ分け等を通じた交流が図られ、避難訓練や災害時も協力をいただいている。コロナ終息後には、途絶えていた地域との様々な事業の円滑な再開が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号 |
| 訪問調査日 | 令和4年10月12日 |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 社会福祉法人柏寿会の理念を基に、事業所の理念を作成しています。日々の業務は理念に基づき職員の個性を発揮したものとしています。 | 「自分らしく、さりげなく、和やかに」をキーワードとする利用者本位の理念を掲げ、毎月ミニ目標を設定し業務を行っている。利用者への「寄り添い」を重視し、出来ることを増やす支援も介護計画に反映されており、職員教育の場面や外国籍職員指導の拠り所としても活用している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 法人・地区行事・運営推進会議・外出等の機会を設け、交流を行っています。 R3年度からコロナ禍の為、自粛するものが多くなっています。 | コロナ禍以前は、保育園児との交流やボランティアの来所、自治会行事への案内等地域とのつながりや交流機会は定期的にあった。今は自粛中止せざるを得ない状況にあるが、近隣住民との定期的な交流や野菜の差入れ等は日常的に行われており、最近では庭の園芸活動がきっかけで、声かけ頻度が増加傾向にある。 | コロナ禍前に交流していた保育園、ボランティアの受け入れ、地域行事への参加、メダカを通じた小学校との関係構築等、終息後を見据えた交流の再開に向けた準備について、地域住民とのゆるぎない関係づくりの強化に併せ、計画的に進められたい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近所の方々とは、家庭菜園を教えていただいたり野菜をお裾分けしていただいたり何気ないご近所付き合いをしています。高齢者の方の見守りも兼ね、変化があった際はご家族様へ様子を報告しています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2カ月に1回の開催を予定している。現在コロナ禍の為、文書での対応となっています。 | 運営推進会議委員には、利用者と家族の全員が委員となり、2カ月に一回書面会議の形で開催している。管理者は、委員からの率直な意見や情報を聞く手だてを工夫したいと考えている。委員の区長や地域住民の方々には、非常時に駆けつけての支援協力をお願いしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村の担当者とは、メールや電話にて連絡しています。運営推進会議の担当者様とは、書面での開催の際も直接お渡しし、都度助言をいただいています。 | コロナ感染関係で、保健所の指示を受け、入院と生活面のチェックなどで担当課に報告をすることも多くあり、また介護認定で相談事があると電話で連絡をし、指導を受けている。書面開催の際には直接担当課に文書を持って行くなど、協力関係は築けている。 | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜勤帯は1名体制である事や防犯の理由により施錠をしています。毎年身体拘束廃止検討委員会の委員より、年6回の内部研修を行っています。 | 身体拘束廃止検討委員会を2ヵ月毎に開催し、ケアのあり方について話し合ったり、スピーチロックについても、お互い注意し合えるような関係作りを進め、研修内容にも盛り込みながら共有を図っている。家族の了承のもと、赤外線センサーを設置している方が2名いる。玄関の施錠は原則夜間としているが、入居間もない利用者の頻回な外出傾向や日没の早い季節等は、止むを得ず早く施錠する事もある。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員会議において、内部研修を行っています。職員に周知徹底しています。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 必要に応じ、内部研修にて学ぶ機会を持っています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は、全てにおいて契約書・重要事項説明書等の説明をしています。契約時に了承をいただいておりますが、不明な点があればいつでも相談を受け付けています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会や電話等で気軽に意見をいただくようにしています。施設側からも遠慮なく意見を頂けるようアプローチしています。 | コロナ禍であり、家族と合同の行事を中止したり、面会制限の時期も多く、電話を中心に連絡をとっている。定期的な電話連絡で、悩みを話してくれる家族も出てきている。利用者の状況報告として、生活状況の写真を網羅した「やすらぎ便り」と毎日の生活状況の記録1ヶ月分の「ケースバック」を送付し、家族から喜ばれている。 | |

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年2回面接評価の場を設けています。その際は意見・要望等をもらうようにしています。個々の業務態度を振り返りスキルアップに繋がるような場としています。また、普段から何でも言い合えるようなチーム作りを行っています。 | 面会制限が続く中、本部に打診し今年度タブレットを購入した。近々、LINEでのビデオ通話を始める予定である。日頃から、利用者支援のアイデアを職員間で提案し合う職場風土の醸成に努め、利用者が草取りを始めた事で、職員も一緒に作業を開始したり、ウッドデッキにツルモノで緑のカーテン作りをしたり、ペットの代わりにメダカを飼育したり活動が今年度始まっている。個別の面談では、管理者がじっくり悩み等を聞く機会にもなっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 課題や要望があった際は、上層部へ報告・連絡・相談をし、労働環境の整備を行っています。少しずつ働きやすい環境となっています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部研修だけでなく、職員間でお互いが理念に沿って業務にあたっているか？を考えながら日々過ごしています。あくまで入居者様の過ごしやすさを求め、お互い指摘し合う事もあります。その後のフォローをし前向きに働ける環境を作っています。ひとりひとりに合ったスピードで確実にスキルアップできるようにしています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内部研修会の参加により、同職種の交流機会を作り、意識向上を図っています。 ※現在コロナ禍の為、見合わせています。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ケアプラン作成時の為、ご本人からの要望を取り入れています。話しやすい環境を作り、傾聴しながら安心できるよう配慮しています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様には、入居決定時に説明を行い、要望を確認しています。ケアプラン作成時に改めて最終確認を行い、ケアプランの作成を行っています。 | | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 必要としている支援を見極め、実際に必要とされるサービスを含めた対応に努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 自立支援を念頭においた介護の提供により共同生活、フロアの掃除や食事作り等一緒に行っています。お互い労う事で、信頼関係を築けています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様と入居者様が一緒に過ごす時間を意識した行事を計画しています(お花見・ドライブ・納涼会・食事会・・・等)。 ※現在、コロナ禍の為自粛しています。県内の流行状況を見ながら、短時間の面会を行っています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご自宅・飲食店・スーパー等への外出支援を行っています。また、昔からの友人等の面会や電話も気兼ねなく対応しています。 ※現在コロナ禍の為、外出は自粛していますが、ご家族様や友人等の電話を受け、なるべく関係が途切れないよう努めています。 | コロナ禍で外出は自粛しているが、家族や友人からの電話も受け入れ、関係性が途切れることのないよう支援している。月1回訪問してくれる医師や、2、3カ月に1回訪れる理容師が馴染みとなっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の性格やパーソナルスペースが違う為、それを踏まえた関係作りを支援しています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後においては、新たな入居先に様子を伺ったり、ご家族様に様子を伺ったりしています。何かあれば相談に応じるようにしています。 | | |

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | | |
|------------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人様の希望や以降に沿った対応を心掛けています。意思疎通が困難な方は、生活歴やご家族様へ以前の様子を伺い、それを基にした対応をしています。個別対応を心掛け、その人なりの暮らし方に寄り添って支援しています。 | 利用者と一緒に過ごす時間はほぼ毎日あり、一人一人の利用者に寄り添い、触れ合いながら意向の把握に努めている。せかせすゆったりとした気持ちで接し、話してくれるまで待つ事を基本にしている。脳梗塞の後遺症で意思表示が難しい利用者には、顔をしかめるなどの表情で確認したり、体調により簡単な会話が可能な日にやりとりをしたりしている。管理者は利用者対応の統一を職員に浸透させている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 個々にフェイスシート作成し、生活歴等を理解した上で支援しています。ご家族様に少しずつ情報を増やしていくようにしています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の生活リズムを把握し支援しています。今までの生活も継続できるよう工夫しています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員会議において検討会を開催し、計画書2と介護支援経過を用いて検討しています。また、普段の様子や生活歴を参考にご本人に様に見合ったプランの作成をしています。 | 入居直後の暫定計画は、安全、健康に過ごしながら事業所に慣れることを主とし、3か月で見直しをし、その後6か月毎に見直している。介護計画作成の検討会は、職員会議で行い、日々の生活や状況等について記録した介護支援経過や職員からの情報をもとに、利用者一人一人に合った、理念の「出来ること」を増やす〇〇さんの日課が複数位置づけられている。家族には丁寧に説明し、承諾を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活や状況等をケース記録や職員からの情報を基に介護支援経過を作成しています。介護計画の見直しに生かせるよう随時情報収集しています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 通院は基本ご家族様対応です。遠方にいる方や高齢のみのご家族様等で対応が難しい方に限り施設対応としております。ご家族様の状況も鑑みながら対応しております。 | | |

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティア等の活用、世代間交流等も活用しています。地域で支え合う関係作りを目指しています。 ※コロナ禍の為、自粛しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 出来る限りかかりつけ医を利用して頂いています。情報提供書を活用し、病院との連携を図っています。 | 入居後も、かかりつけ医の受診を原則家族対応で継続している。受診の際は、1ヵ月分のバイタルの記録と食事や排泄等の日常生活の様子を記載した情報提供書を主治医に提供している。地域に精神科の県立病院があり、2名の利用者が治療を継続している。身体状態の低下等で2名の利用者が月1回一関病院の訪問診療を、5名の利用者が同様の頻度で皮膚科医の訪問診療を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常生活において気付きを大切にしています。些細な変化を見逃さず、他職員と確認する事を習慣化しています。早期発見・早期受診をし、重症化を防ぐ努力をしています。通院前に同法人内の看護師に確認し、指時を仰ぐ事も意識しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入退院に関しては、文書・口頭による情報提供をしています。また、入院中も医療相談室と連携し、退院後スムーズに施設生活が継続できるよう体制を整えています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約の段階から今後の在り方をご家族様へ共有。要介護3以上の方へは特養への申し込みも勧めています。また、要介護3以下の方へもその都度お伝えしています。重度化傾向にあり、出来る限り身体介護を提供しています。 | 入居にあたり、事業所として看取り対応は出来ず、重度化した場合には、施設入所等を視野に入れた対応を執っている旨の説明をしている。現実には、最重度の介護度でもすぐには入所出来ず、複数の職員で入浴介助をしたり、とろみ食等食事形態を工夫したりと、事業所で可能な対応を行って、事業所として出来るところまで支援をしている。 | |

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 普通救命講習会・職員会議での研修。また、今いる入居者様に起こりうる急変・事故に備え訓練を行っています。 ※救命講習会に関してはコロナ禍の為、実施できていません。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を行っています。火災だけでなく、震災・土砂災害等も想定した訓練を実施しています。都度近隣の方にも参加していただき、協力体制を確認しています。 | 年2回の火災避難訓練だけでなく、事業所独自のミニ訓練を実施している。隣宅の大家と駆付け協力のある隣人には、予め日時を連絡し、都合に合わせて参加載っている。また、区長や民生委員も駆付け協力を依頼している。水害の心配はなく、火災と地震を想定しており、大規模被害の際は、法人本部の特別養護老人ホームに避難できる体制にある。夜間避難に備え、中庭には足元灯を複数設置予定としている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 声掛けの工夫をしています、また、ひとりひとりの動き出しに合わせ対応しています。 | 利用者への声かけは「さん」づけで呼び、部屋へはノックと声掛けをしてから入室している。声掛けにも配慮し、排泄の時には耳元で小声で話すようにし、失敗した時には、さりげない対応を心掛けている。管理者は馴れ馴れしくならず、人生の先輩としての対応を注意喚起している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己選択・自己決定を念頭におき、入居者様自身の思いや希望を引き出せるよう支援しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ひとりひとりの生活リズムを把握し、支援していません。意思疎通が難しい方に関しては、体力やその日の状態に合わせ支援をしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 今までの趣味や好みを施設に入居しても継続していただいています(髪の毛の長さ・毛染め・) | | |

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご飯・味噌汁以外はチルド食を採用しています。バリエーション豊富で、毎食楽しみにされています。週1回麺の日を設け、皆さんが食べたい物を調理し提供しています。入居者様にも出来る事(盛り付け・皮むき等)を手伝っていただいています。 | 1ヵ月分の献立を配食事業者が作成し、ごはんのみそ汁は職員が調理し、おかずはチルド食を利用している。週に一回手作り昼食の日を設け、利用者の食べたいものを聞いて提供している。行事食として、お花見の時や敬老会には弁当を、暮れには鍋を提供し喜ばれている。特に手作り料理には「また食べたい」と指でOKサインを表す等のリクエストがある。利用者は皮むきや盛り付け等、できる事を手伝っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | バランスのいい食事を心がけています。また、量にも配慮し食べ過ぎないように気をつけています。水分もこまめに飲みたい時に飲めるようにしています。目標は1500cc~1800ccですが、無理強いはしないよう工夫しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自立・一部介助・全介助それぞれに応じて、誤嚥性肺炎の予防・歯周病等の予防に努めています。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の失敗による羞恥心を減らす為、職員はスムーズに処理を行っています。また動き出しを把握し、トイレへさりげなく案内するようにもしています。ひとりひとりに合ったアイテムを使用し、皮膚トラブルを減らすよう工夫しています。 | 夜間ポータブルトイレを利用している4名の利用者も、日中はトイレでの排泄が出来ている。排泄のパターンをチェックすると共に、仕草を見てトイレ誘導を行っている。失敗した時には、さりげない処理対応をし、利用者の羞恥心を減らすよう心掛けています。リハビリパンツやパットについては、取扱業者と相談しながら、最適な補助用品の使用を工夫している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 麦ご飯・ヨーグルト・牛乳等の摂取、活動量や水分量による自然排便を促す対応をしています。薬の影響で便秘になりやすい方は医師と相談し、適切な量の下剤を使用しています。 | | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週に2回午後に入浴を基本としています。予定を組みながら無理強いせず臨機応変な対応をしています。入浴剤を使用し、のんびり入りたい方・会話を楽しみたい方・思い思いの時間を楽しんでいただいています。体調面で入浴出来ない場合は、清拭・陰部洗浄等行っています。 | 月曜日から土曜日まで、1日3人の週2回午後入浴を基本としている。入浴は同性介助を主とし、1人での入浴や静かに入浴を希望する方に合わせ、職員は見守り対応をしている。特浴の方には職員2人で介助し、嫌がる方には、無理強いせず臨機応変に対応している。季節に合わせ、菖蒲湯、柚子湯、メンソールなどの入浴剤を使用し、季節感を醸し出しながら楽しんで入浴できるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ひとりひとりに合わせた対応をしています。日中は生活歴に合わせ無理強いせず、適度な休息をしていただいています。夜間は時間を決めず、眠くなってから就寝できるよう、また安心して就寝していただけるよう心掛けています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬事情報を基に職員間で情報共有し、目的や副作用について把握しています。服薬間違いのないよう職員間でダブルチェックをし、誤薬防止しています。服薬調整の際は、状態をこまめにケース入力し、医師へ報告できるようにしています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ひとりひとり出来る事が違う為、見合った役割をお願いしています。労いの言葉を忘れずに職員間で意識統一しています。家庭菜園で収穫したりメダカの世話をしたりとハリのある生活を送る事ができるよう努めています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 年2回程度の家族様との外出・合同ドライブ・食事会、日用品の買い物や地区行事の参加等可能な範囲で支援しています。 ※現在コロナ禍の為、自粛しています。 | コロナ禍でなかなか外出が難しい状況ではあるが、畑や事業所前の庭の草取りやウッドデッキでの外気浴、玄関前のベンチでの日向ぼっこ、また1人～2人ではあるが、事業所周辺の散歩をする等、少しでも外に出る機会を持てるよう支援している。今秋には、法人の車を使用しての紅葉狩りも計画している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人様・ご家族様了承の基、預り金として管理しています。買い物の時に必要程度お渡しし、購入していただいています。 | | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホームやすらぎの家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話したい時は職員が電話をかけ、ご本人と代わっています。ご家族様や友人等からも気軽にかけていただけるようお伝えしています。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 木造で既存の建物を利用しています。入居者様にとっては馴染み深い物になっていると思われます。テレビの音量や不快に感じる刺激がなるべくないよう配慮しています。くつろげる空間を心掛けています。 | 共有スペースには食卓兼用のテーブル、ソファ、テレビが設置され、利用者は思い思いのところで好きなように過ごしている。ウッドデッキの緑のカーテンは、秋には干し柿に模様替えされる。メダカの水槽は居室からホールへの出入り口にあり、利用者の観察の楽しみとなっている。室温はエアコンやファンヒーター、冬場は加湿器も利用し、適温を保つように配慮している。季節感を感じ取れるように、職員と一緒に作ったものを飾り、居心地よく過ごせるように工夫をしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ひとりひとりが落ち着いて過ごせるよう、フロア内にソファを設置しています。仕切りも用意し、いつでもひとりになれるよう配慮しています。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 愛着のあるものを持参していただき、自分の部屋という意識を持っていただいています。遺影や仏壇等を持ち込まれている方もおります。 | 備え付けの物はベッド、クローゼット、エアコンで、テレビ、テーブル、椅子、位牌、写真、衣装ケースなどを持ち込み、自分で作った折り紙や、園児が慰問に来た時にもらったものを飾るなど、自分の好きなようにレイアウトし、居心地よく過ごせるようにしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ひとりひとりの動線に合わせた配置にしています。目の不自由な方がスムーズに歩けるよう工夫しています。なるべく自立して歩けるよう職員も配慮しています。段差等を事前に教え、事故を未然に防ぐ支援をしています。 | | | |